

平成 24 年 12 月 13 日

狛江市議会議長

栗 山 欽 行 様

社会常任委員会

委員長 西 村 あつ子

社会常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

記

1 調査事件名

高齢者の居場所づくりについて

2 調査の目的

高齢化が進む中、高齢者が孤独にならず地域で生き生きと暮らせるよう、地域での居場所づくりが求められるため調査をすることとした。

3 調査の結果

本委員会では、高齢者の居場所づくりの現状等について市から説明を受けるとともに、狛江市社会福祉協議会や市内で活動している高齢者会食会等を視察し、関係者から説明を受けた。これらを踏まえ地域の資源を有効に活用して、各地域での活動を支援し、高齢者が一人でも気軽に立ち寄ることができる居場所づくりを充実されるよう以下のとおり提言する。

(1) 小地域活動

社会福祉協議会では小地域福祉活動を推進し、現在では市内の3地域（岩戸，猪方・駒井，野川）と和泉地域の一部で地域の方が行う交流活動が展開されている。全地域での開催を求め、情報交換などを行っているが、地域の交流の場として広がってきた活動をさらに全地域で展開していくことが求められる。そのためには、町会組織がない地域，組織単位が丁目をまたがっている地域等への支援方策，活動経費の確保，職員の推進体制の強化の必要性などの課題がある。

高齢者会食会では 50 名を超える高齢者が登録し、視察当日は 46 名が参加。献立の作成は高齢者が一人ではつくって食べられない物を考え、主婦感覚で安く地場野菜を取り入れ、ボランティア同士が仲よく協力して行っているとの説明を受けた。

スタッフは 20 名を超え現状では足りているが、若いスタッフの参加が求められる。また、ボランティアに男性がいないことや、食事が安く提供できるよう補助金の存続の要望が寄せられた。

(2) 情報提供

町会や自治会等が行っている事業については、市としても一定の把握ができ情報提供もできる。一方、個人宅等で小規模の集まりを実施している場所の把握は難しく、市内全ての取り組みについての情報提供は難しい。今後は地域で活動をしている団体等をより多く把握し、シルバーガイドブック等に掲載する等の情報提供も必要である。

(3) 活動支援

各団体では、利用者の固定化や男性の参加が少ない問題、引きこもりがちな高齢者の問題、世代間交流がなく地域を支える担い手の育成等の問題を抱えている。市として、関係団体との連携を図り各地域でのサロン等の活動への支援、空白地域での組織等の立ち上げや相談体制の確立などの支援も求められる。

(4) 今後の居場所づくり

高齢者が一人でも気軽に立ち寄ることができるような居場所づくりが必要である。公共施設の充実や民間施設へ場所の提供を働きかけるなど、いつでも利用できる場所の確保が求められる。

公共施設では、夏場の時期のクールシェアの取り組みや飲食ができる場の提供、生涯学習の推進など公民館活動の充実、高齢者が健康で生き生きと過ごせるよう、うんどう教室や健康セミナーなどのさらなる充実が求められる。

また、空き店舗等の利活用を進め世代間交流を図り、サロンへの呼びかけなどを通して地域での見守り体制をさらに進めていく必要がある。

4 調査の経過

○ 委員会開催日（合計 12 回開催）

- 平成23年 6 月22日 所管事務調査事項を決定
- 平成23年 7 月29日 「高齢者・障がい者福祉の充実及びその対策」について協議，調査に必要な資料の要求
- 平成23年 9 月16日 調査項目を決定（高齢者の居場所づくり）
高齢者の居場所づくりについて，資料に基づき市側より説明，質疑応答及び委員派遣を決定
- 平成23年10月28日 高齢者の居場所づくりについて協議
- 平成23年12月14日 現地調査を踏まえて高齢者の居場所づくりについて，委員間の意見交換，質疑応答
- 平成24年 1 月27日 高齢者の居場所づくりについて協議，調査に必要な資料の要求
- 平成24年 3 月 7 日 高齢者の居場所づくりについて資料に基づき市側より説明，質疑応答及び追加資料の要求
- 平成24年 6 月 7 日 高齢者の居場所づくりについて資料に基づき市側より説明，質疑応答
- 平成24年 7 月27日 高齢者の居場所づくりについて協議
- 平成24年 9 月20日 調査報告書作成に向けての協議
- 平成24年11月 1 日 調査報告書作成に向けての協議
- 平成24年12月13日 調査報告書決定

○ 委員派遣

- 平成23年11月 1 日 あいとぴあセンター（高齢者会食会），狛江市社会福祉協議会（小地域福祉活動の現状）に委員 7 名を派遣し，調査